ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム（派遣）
研究交流報告書

報告日：2020年3月28日

派遣者所属名	大学院保健学研究科
派遣者氏名	林 敦子
<p>CBUのディレクターであるMatt Lambon Ralph教授のLanguage Groupを訪問した。言語や意味記憶についてファンクショナルMRIや脳波、脳磁図などを用いて検討する研究、失語症を対象として経頭蓋磁気刺激などを用い、言語機能、言語リハビリについて調べる研究などをメインに行っている。訪問先にはリサーチスタッフ、ポスドク、博士課程の大学院生がおり、そのうち12名について1人ずつ彼らの研究のプレゼンテーション・説明を聞き、討論を行った。Matt Lambon Ralph教授と現在行っている研究内容（アルツハイマー病のメタ記憶についての研究、進行性失語の症例研究）についてディスカッションをし、今後の研究のプラン、連携について話し合った。リサーチスタッフ、ポスドク、院生などが研究を発表するLanguage Groupのミーティングや、ランチタイムセミナー、CBUや外部講師によるChaucer club（講演会）（それぞれ週に1度）などを聞き、質問、討論を行った。</p> <p>James Rowe教授のAddenbrooke's Hospitalにおける前頭側頭型認知症外来診察の見学を週に1回行なった。いくつかのタイプの前頭側頭型認知症の患者の診察、家族の相談に臨席し、時間があるときには直接患者や家族と症状や日常生活について会話をした。新型コロナウイルス感染者がまだヨーロッパにそれほど広がっていない時期には、医師から患者・家族に日本からの訪問者の見学が大丈夫かどうか確認を取っていただいた（見学は可能であった）。症例検討の時には各患者の症状、家族の関わりなどについても報告、ディスカッション、質問などがなされた。</p> <p>病院診察見学時には、CBUの名誉会員であるKaralyn Patterson氏にも患者の診察、症状について教えていただき、進行性失語の症例研究について討論を行った。</p>	

海外派遣終了後の研究の進捗状況（2021年3月現在）

現在行っている進行性失語の症例研究についてMatt Lambon Ralph教授、Karalyn Patterson先生にコメントをいただき、論文投稿の準備を進めている。軽度認知障害、アルツハイマー病のメタ記憶についての研究は今年度コロナ禍であまり進められず、様子を見ながら少しずつ再開する予定である。